

袋井市教育委員会 会議録（要旨）

会 議 名	平成30年度第1回袋井市総合教育会議
招 集 日 時	平成30年8月2日（木）午前10時
会 議 時 間	午前10時から午後0時5分まで（2時間5分）
場 所	袋井市役所庁議室
出 席 者	原田英之 市長 鈴木典夫 教育長 前嶋康枝 委員 上原富夫 委員 豊田君子 委員 大谷純應 委員 (計：6人)
欠 席 者	無し
傍 聴 者	無し
当局出席者	伊藤秀志 教育部長 本多晃治 教育企画課長 乗松里好 すこやか子ども課長 平野邦孝 学校教育課長 荻原規代 教育企画課教育総務係長 (計：5人) (合計：11人)
会議に付した 事件	別紙「平成30年度第1回袋井市総合教育会議 日程」のとおり

平成 30 年度第 1 回袋井市総合教育会議 日程

日時：平成30年 8 月 2 日（木）

午前10時開会

場所：袋井市役所庁議室

会 議 日 程

日程第 1 開 会

日程第 2 会議録署名委員の指名

日程第 3 市長あいさつ

日程第 4 議 事

袋井市における『未来の教育』を語ろう

（1）タブレットを使用した I C T 教育の実体験

（2）意見交換： 袋井市における「未来の教育」について

日程第 5 その他

（1）保育料の無償化について

（2）次回総合教育会議の予定について

第 2 回総合教育会議 11 月 1 日（木）午後 1 時 30 分～ 市役所 4 階 庁議室（予定）

日程第 6 閉 会

（午後 0 時 5 分閉会）

平成 30 年度第 1 回袋井市総合教育会議 会議録（要旨）

1 開会

●伊藤教育部長

ただ今から、平成 30 年度第 1 回袋井市総合教育会議を開会いたします。

袋井市では、地方創生事業でタブレットを使用した授業を今井小学校で、また、経済産業省の事業採択を受けた三川小学校においても同様にタブレットを活用した授業を行っていきます。

本日は、市長、教育委員の皆様、ICT、企画、戦略等の市職員も同席し、今後どういう風に教育が変わっていくのか体験を概ね 1 時間、その後に意見交換ということで総合教育会議を進めてまいりたいと思います。

2 会議録署名委員の指名

●伊藤教育部長

袋井市教育委員会会議規則第 16 条第 2 項の規定に基づき、豊田委員 及び 大谷委員 を指名いたします。

3 市長あいさつ

●原田市長

おはようございます。本年度の 1 回目の総合教育会議です。

本日は、私達もタブレットを実際に使ってみるということで必要なことと思います。

私は、現在、全国市長会国の社会文教委員会の副委員長を務めています。国では、来年の 10 月から消費税が 10%になることを受けて、来年の 10 月から保育料を無償化にしていくとの決定であるが、無償化の対象となる保護者への情報提供など来年度の入園に向け、いつから準備するのか、また、区分けによっては不公平感をもたらすことが懸念されます。

全国市長会では、再来年の 4 月から無償化のスタートとなるよう働きかけているところです。本日は、その他として「保育料の無償化について」を取り上げていただくようお願いをしました。

前段のタブレットを使用した ICT 教育は、これからの教育に必要であると思います。教育の内容が段々変わっていき、現場の教職員の対応も大変になっていくと思いますが、何かを削るという発想をもつことも必要かと思えます。

全国市長会では、連日の猛暑によりクーラーの設置が話題となりますが、エアコンはリースでは補助金の対象となりません。トイレの洋式化も同様です。リースであっても補助金対象となるよう制度改正の必要があると考えます。また、エアコン設置がすぐにできないのであれば、子供たちが犠牲とならないよう、夏休みを長期化するなど経費をかけず工

夫することを柔軟的に考えていかなければならないと思います。

このようなことを教育委員の皆様にもご承知おきいただきたいと存じます。

4 議事

袋井市における『未来の教育』を語ろう

●伊藤教育部長

タブレットの導入及びモデル的となった経緯について学校教育課長からの説明後、実際にタブレットを使った実体験をしていただきますのでよろしくお願ひします。

(1) タブレットを使用したICT教育の実体験

《説明者：学校教育課長》

●学校教育課長

私から、今回三川小で実施する『「未来の教室」実証事業』につきまして、ご説明させていただきます。

本事業の「趣旨」については、経済産業省が実施する「学びと社会の連携促進事業（『未来の教室』（学びの場）創出事業）」を活用し、教育サービス事業者【凸版印刷（株）】と連携した、新たなICTを活用した、未来の学び方の実証事業を行うものです。この『「未来の教室」実証事業』とは、教育をテクノロジーを使って効果的に学ぶ取り組み、「EdTech」を活用した「学びの革命」のことです。

今回の「事業採択・実施までの経緯」については、凸版印刷(株)からの提案を受け、事業内容を共同で企画したものを教育サービス事業である凸版印刷が申請し、採択を受けたものです。

子供たち一人ひとりの資質・能力に適した学習を進めるため、公教育（こうきょういく）において、タブレットを使った、新しいスタイルの授業を実践し、その効果検証を行うことを狙いとしています。

体制としては、凸版印刷(株)が受託者となり、現在子供たちが使用している算数科の教科書会社や、市が進めている思考ツールを、デジタル開発しているL o i L o (株)と協力し実施していきます。

具体的な取組内容としては、三川小をモデル校とし、初年度は5年生（34人）、2、3年目は5、6年生を対象として、一人一台タブレットパソコンを貸与し行います。個々の児童のタブレットの中に、算数科のデジタル教科書と、復習や家庭学習として使用できる学習ソフトである「やるk e y」、もう1つは、思考ツールのソフトである「ロイロノート」の学習支援ソフトを入れます。前者は、基礎基本の効率的な学びを促進させ、後者は、考えを深め合う活動を支援し、子供たちが自ら考え、課題を解決していく力の向上を促進させます。

これら新たなデジタルツールを活用することで、新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」の実践にもつながるものと考えます。

これにより、「授業」は、「画一的な授業」から「子供主体のアクティブな授業」に「家庭学習」については、「均一的な理解度を前提とした学習教材」から「個別に対応した教材」に改善させることに期待がもてます。

また、本事業では、学びの効率をさらに引き上げるため、児童用のデジタル教科書を開発することで、子供たちは、問いや章末問題を一人学びでき、教師は個々の児童の到達状況がタブレット上で確認できるシステムを導入し、机間（きかん）指導のポイントを絞ることができる仕組みも検証していきます。

また、宿題の確認も教師タブレットでできたり、個々の児童で答え合わせができたりするなど、デジタルソフトの活用により、教師の実務の効率化を図ることで、子供と向き合う時間の確保のほか、これまで、教材準備に掛けていた時間を授業改善に向けた企画を練る時間にあてるなど、教育の質と量の改善が図られるものと期待しています。

本事業は、ICT教育の次のステージを見据えた、まさに「未来の教室」の実証事業として取り組んでまいりたいと存じます。

本日は、凸版印刷（株）、（株）LoiLo、学校図書（株）さんにタブレットの操作方を御指導いただきながら、実際、授業や家庭学習で児童が取り組む内容を体験していただきたいと思います。それでは、皆さんよろしく申し上げます。

《 説明者①：学校図書（株） 》 10分

●学校図書 川口

デジタル教科書（算数）の機能について

《 説明者②：凸版印刷（株） 》 5分

●凸版印刷（株） 岡田

個別学習ドリル教材「やるKey」の効果と機能について

《 説明者③：（株）LoiLo 》 45分

●（株）LoiLo 野中

タブレットを使用した模擬授業、シンキングツールについて

（ロイロノート・スクールは子供たちからの発信を助け、共有、蓄積して学び合うためのツール）

(2) 意見交換： 袋井市における「未来の教育」について

[質疑・意見]

●前嶋委員

実際に使っている学校は徐々に増えているのでしょうか。

●(株) L o i L o 野中

現在、いろいろな自治体で使用していただき、1,000校以上あります。

本日の資料に授業実践事例や導入校の掲載があり、多くの学校で広く使われています。

●原田市長

袋井市の学校でもシンキングツールを使っているのですね。紙でもベースのところは生徒も教職員も理解しつつあり、タブレットではどうハンドリングするかということですね。

●大谷委員

I C Tを活用するということと思考ツールが合わさって、ロイロのツールはより効果的な教育ができるのだと思いますが、I C Tを活用するということは授業が効率的に行うことができ、思考ツールを使うことで子供たちが主体的に物事を考えることができるということは、別々の議論となるかと思いますが、一緒に話が始まり、若干、我々は困惑している状況です。

先生方がどれくらい両方を使いこなしていけるようになるのかと。

●原田市長

I C Tを活用するということと思考ツールと両方一緒にスタートすると先生方は大変だと思いましたが、シンキングツールは既に理解していて、いかにI C Tを活用するかであれば、心配はいらないでしょう。シンキングツールを形に表せるのはロイロの素晴らしいところですね。

全校に導入となるとお金がかかり、未導入の学校でも思考ツール(紙)を使った授業ができるのであれば、導入に若干の時差が生じても心配なさそうですね。増やしていけばいいでしょう。

●鈴木教育長

6月2日に袋井市内の全小中の教員500人余を集めた研修会を開催しました。

思考ツールを使うという講習会も既に行い、使っている学校もあります。

三川小では子供たちが一度教われれば操作でき、シンキングツールは今まで紙で使ってい

るので、タブレットを使用することで、同じ時間の中で効率的に意見等がまとめられ、時間が濃い授業となると思います。

●大谷委員

凸版のやるKeyは、より効率化や省力化が具体的に分かり易く、個々の児童にあった膨大な蓄積された情報の中から選びだされた最適な出題がされるなど、全校に導入できたら非常に素晴らしいですね。

●前嶋委員

導入されると丸付け先生はいらなくなるのでしょうか。

●鈴木教育長

導入されるのは、算数と漢字のみですね。

●原田市長

凸版のやるKeyは、公文式とはどう違いますか。

●凸版印刷（株） 岡田

公文式は学年の概念が無く積み上げて学習していく仕組みで、やるKeyは学校の授業の目標に応じたドリルとなっていて、そこからは個別の学び直しとなります。

●鈴木教育長

公文式は幼稚園から大学までのレベルがあり、同じレベルの問題を一定数解かないと次のレベルに進めないのですが、定着という点で優れたシステムであると思います。

やるKeyは、わかれば先に進みわからなければ戻るというこの定着は、公文式に負けないでしょうか。

●凸版印刷（株） 岡田

公文式に負けないものと思います。わからない問題は何回やってもわからないので、やるKeyはわかるところまで戻り積み上げていけるので、次に進むには早いと考えます。

●前嶋委員

やるKeyは、公文式と異なり、授業の目標にあった内容のシステムということですね。

●凸版印刷（株） 岡田

やるKey は、授業の到達点に向けて学んでいくという内容のシステムです。教科書会社の作った内容に沿ったドリルとなっています。

●鈴木教育長

教科書に沿って（授業の種類に合わせ）子供たちは、やるKey を使っていくということですね。

●凸版印刷（株） 岡田

やるKey は、基本的に教科書どおりに進めていくものになります。

●原田市長

学力の優れた子供が、先に進むことができるのは公文式も同じですね。わからないところへ戻り学び直すことができるのは、やるKey の優れたところだと評価します。

●大谷委員

凸版のやるKey は、教える方だけでなく、子供たちにとっても効率化や省力化となって楽しんで取り組めるものと思います。従来の計算ドリルや漢字ドリルは、3 ページや10 ページ学習するのに一定の時間は強制的にかかります。わからないことだけを抽出して学習できるのは、効率化が図られ、時間とか余力を他の勉強に使える。勉強の進度や高度をより高め深められると考えます。

●鈴木教育長

今回、凸版のやるKey とロイロのシンキングツールはセットでなくてはなりません。ロイロのシンキングツールに費やす時間を生み出すためには、凸版のやるKey で個々の基礎基本の定着部分の効率化が必要となってきます。効率化により生み出された時間でシンキングツールを使いこなすのが理想的な方法です。

やるKey は解けるところまで戻って一人での自学自習であり、ロイロのシンキングツールは皆で勉強するものです。やるKey は今まで授業や宿題でできなかったところをソフトでできるようになるというものです。

自学自習という点では公文式もやるKey も同じです。

やるKey の場合は教科書に沿ってですが、できる子はどこまで進めることができますか。

●凸版印刷（株） 岡田

経済産業省の事業の開発のところもありますが、現行のやるKey の上限は、教科書の巻

末の問題やチャレンジ問題です。授業中にはそこまでなかなか進めないものと思います。

今後は難しい問題やB問題等について準備していく旨の議論はあります。現行は教科書を超えない範囲であり、今後どうするか議論をしていきます。

●原田市長

教育長の現場で見ている様子は、よくわかりました。凸版のやるKeyとロイロのシンキングツールがセットとなると道具を揃えるのは大変なことですが、浸透していくと素晴らしいと思います。コンテンツについては、議論が必要であると思います。

●大谷委員

多くのメリットがあると思いますが、使いこなすのに教員や子供たちは、時間と労力がどの位必要となるのでしょうか。

●(株)LoiLo 野中

各学校の研修は、教職員向けに1回のみです。子供向けの研修の実施はありません。

●大谷委員

結果、15歳になった時に、自分が行きたい高校に行けるかどうかだと思います。

地域の学力もありますが、結果的には自分がやりたいことのために学習をするものと思います。

新しいことが導入され思考的なスキルが身に付き、様々な問題に対応できるような学習能力がつくとかはどうでしょうか。

●(株)LoiLo 野中

本質的な話だと思います。大学入試も変わっていき、マークシートでなく考え方を論じていくなど、常に考えをアウトプットすることをしていないと対応できない問題へと変わってきています。今後、高校入試もそうなるので、シンキングツールを使いながら、常に自分の考えをまとめてアウトプットする機会をつくっていかないと自分の行きたい高校へ進学するのがむずかしいというような流れになっていきます。AO入試では、ペーパーテストで測れない能力をどのように測るかを今、挑戦しています。

●鈴木教育長

導入している学校の学力については、(株)LoiLoで把握していますか。

● (株) L o i L o 野中

提案資料の事例の冊子P. 2、3の実践のように、ノート添削のペーパーレス化により、生徒一人ひとりと課題に対するキャッチボールを頻繁に行えるようになり、テスト成績が目覚ましく伸びたという事例などから効果が伺えます。

●大谷委員

都会では、勉強ができる子は幼稚園の頃から高度な教育を受けていたと思います。全国的に広範囲にボトムアップを図っていこうというのが今の教育の方向性かと思いますが、教師も子供たちも上手くついていけるかというのが懸念されます。地方の公立のゼロベースの学校では効果の出方がちがうのではないかと思います。導入した方がいいと思いますが、結果がすぐにでないと思うので、気長に見ていく必要があります、大変さを課すものと考えます。

●鈴木教育長

市の標準カリキュラムの中で、思考ツールを使うことに慣れていないなど抵抗感がある教員もいますが、周南中では全ての授業で思考ツールを使っています。

指導していただいている黒上先生に子どもたちの能力差が出るのではと質問しましたことがあり、視覚化し図を使うことで、全員が参加できるようになり、今の学習指導要領の方向性である思考力を伸ばすことができると考えます。

覚えることが勉強でなく考えることが大事です。そのための道具がスキルであり、比較、分析、推論するなどに分けて、視覚化の絵により全員参加ができます。論理的な考え方を組み立てる道具としてフィッシュボーンなど学年に応じた使い方により全員作業ができ、皆が参加できる考え方として有効であると考えます。

●原田市長

取り入れて学習していくのは、教職員の現場での負担感があるかだと思います。何かをやめることも視野にいられたらいい。市長部局もペーパーレスとなり仕事の効率化や省資源化が図られました。教育の場でも変革するときには、負担感の増をクリアしていく必要があると思います。

三川小は、袋井市で一番最初のタブレット導入により走りだせる教職員の中のトップランナーであると考えてください。

● (株) L o i L o 野中

既に様々な自治体や学校でタブレットを導入していますが、教育委員会が主導によるモデル校で先行し、ロイロのサポートや授業公開により、未導入校でも使ってみようという

気持ちをもっていただけるように進めていくのがよいと考えます。

シンキングツールを使い思考力を鍛えることにより、全国学力調査のB問題での正答率が伸びていくものと思います。

●大谷委員

すぐには伸びないかもしれないので、中長期的に見ていく必要があると思います。

導入により効率化や省力化が図られる中で、先生が子供たちに目を向ける時間や労力ができるようになるという事例やメリットを具体的に伝えることができることとよいと考えます。先生方にぜひ使っていただきたいですし、目標をもって使っていただくことでメリットが大きく大変意義があるものと思います。

●上原委員

全ての学校への導入は経済的に難しいが、先行的に実施していき学力の向上を期待しています。子供たちの成績のアップダウンに加えて、先生たちのものの考え方や価値観の変動を見ていく必要があり、大きなファクターであると思います。どう変わったかを重視し、不便さや利点を大きくアピールすることで、袋井市の教員皆のコンセンサスが取れていける可能性があると考えます。まずは、チャンスの平等性より限られた学校や地域で、しっかりしたデータや結果を取っていく方法がベターであると思います。

●豊田委員

ロイロのシンキングツールや凸版のやるKeyについては、皆さんと同感です。

母親の目線では、子供たちのランドセルの荷物の多さが、デジタル化によって少しでも少なくなり、体に負担がないものとなってくれることに期待し、未来の教育では、そのようになってほしいと願います。

●前嶋委員

本日のタブレットの実体験により、未来の教育が見えてきました。

子供たちが全員参加することで自己有用感が育まれ、タブレットがなくても思考ツールを学校の中で使っていくことの大切さを改めて知ることができました。

また、15、16年前に袋井南小や高南小で英語教育を先行実施しましたが、今、その成果が非常に表れてきており、同じくICTを活用した教育も先行実施の成果について、少し長い目で見えていき、子供たちの自己有用感が更に高まることを願います。

●伊藤教育部長

本日は、タブレットを実際に使い、「未来の教育」がどのようなになるのか質問を含め意見交換をしていただきました。

袋井市では、全小中学校に電子黒板を設置しています。先行して投資してきたことが今後のICT教育に生きていくものと強く感じました。

5 その他

(1) 保育料の無償化について

●伊藤教育部長

資料については、幼児教育・保育の無償化について、今の状況をまとめたものです。

1 ページめは、無償化の対象について、0歳から2歳までは、住民税非課税世帯について無償化としていき、3歳から5歳までについては、全ての幼稚園保育園の保育料を無償化としていく方向性が示されたところです。待機児童の対応については、認可外保育施設について37,000円を上限に補助をする方向性が示されました。

2 ページめは、袋井市における無償化対象者数と無償化により想定される年間保育料です。

国においては、現在、概算要求として精査していますので、その点については、改めて詳しい資料を作成し、教育委員会定例会にて説明をしていきます。冒頭、市長からの話にありましたように、9月には来年度の保育所入所の申込や問い合わせが増えてきますので備えていきたいと思っております。詳細は資料のとおり。

6 閉会

(午後0時5分閉会)